

I 実践

1 研究主題 互いに認め合い、励まし合い、助け合うことのできる児童の育成 ～体験活動や交流活動を通して～

(1) 主題設定の理由

本校は、「ふるさと山部を愛し 心豊かに たくましく生きる 山部っ子の育成 ーかしこく、なかよく、たくましくー」を学校教育目標とする全校児童27名の小規模校である。児童の約3割は、祖父母と同じ敷地に居を構え、祖父母と関わりをもつ機会が多い。児童は明るく素直で、高学年の児童が低学年の児童の面倒をよく見ている。しかし、少人数のため、集団生活の中で甘えが出て、自己中心的な言葉や行動をとってしまう児童もいる。また本校は、複式学級3クラスでクラス替えもないため、友人関係が崩れてしまうとなかなか修復が難しい。卒業後は、生徒数の多い中学校へ進学することを考えると、集団の中で思いやりの心をもって、誰とでもなかよく生活できる児童の育成が必要である。さらに、今年度より知的障害特別支援学級が設立され、自閉症・情緒障害特別支援学級と同様、それぞれの特性を理解し、一人一人ができることを認め合える心を育てていくことが課題である。

そこで、学校の全教育活動を通して、本校のめざす児童像である「明るく、思いやりのある子ー互いに認め合い、励まし合い、助け合う子ー」の育成を目指して本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 総合的な学習の時間、特別活動、道徳を中心とした全教育活動における人権教育の充実
- イ 異学年との交流活動の促進
- ウ 豊かな体験活動の展開推進
- エ 教職員自らの人権に関する認識を深めるための研修

2 実践内容

(1) 総合的な学習の時間、道徳、特別活動を中心とした全教育活動における人権教育の充実

ア 総合的な学習の時間の実践

中学年の総合的な学習の時間で、「山部のよさを見つけようー山部のみかんー」をテーマに、校内にあるみかんの木の手入れや観察を友達と協力して行った。また、地域の方をGTとして招き、学区内にある山部小発祥の地や炭鉱跡を巡ることで、郷土の歴史に触れ、地域の方が小学校へ託した思いや願い、地域の特色を直に感じ取ることができた。また、大変な道のりを友達と励まし合ったり、共に学ぶ喜びを分かち合ったりすることができた。(写真1)



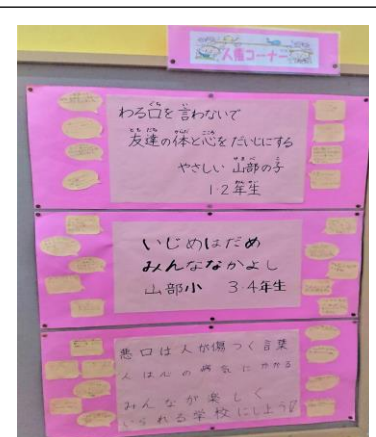
(写真1) 山部小のみかんの木を手入れしているところ

イ 人権教育を取り入れた道徳授業の展開

低学年では「さるへいと立てふだ」を取り上げ、友達の自分と違う意見を知ることや話し合いを深めることで、誠実でいることが楽しく生活するために必要であると気付くことができていた。コロナウイルス感染症に関して、病院で働く人や感染してしまった人に対する偏見があることや、感謝の気持ちをもって生活していく内容を適宜取り上げ、明るい気持ちで生活できるよう働きかけることで感染症対策への理解やお互いの命を守っていこうとする姿が多く見られるようになった。

ウ ハートフルタイム

高学年の児童が中心となって、いじめ防止の意識を高めるため、ハートフルタイムを行った。コロナウイルス感染症予防のため、各教室に運営委員が出向き、詩の朗読「わたしがたねをまかなければ」の読み聞かせを行い、いじめ防止標語を各学級から募集し廊下掲示をした。その後、他



(写真2) 人権コーナーの設置の様子

学年児童から標語に対する意見を寄せ、それぞれの「自分や周りの人の心も身体も大切にしたい」という気持ちが高まった。(写真2)

エ 人権教育を考えた学級経営

互いのよさを認め合える場を各学年で設定し取り組んだ。低学年では、「今日のヒーロー」を帰りの会に実施し、一日を振り返り一人一人のがんばりや優しさ等を見つけ発表し合った。

(2) 異学年との交流活動(たてわり班活動)

児童を3つのたてわり班に分け、年間を通して様々な集団活動に取り組むことによって、異学年児童相互の親睦を深め、他者への思いやりや助け合う心を養うことを目指した。

ア 愛校活動

たてわり班ごとに、週1回特別教室を清掃している。上級生が下級生の面倒をみたり、やり方を教えたりしながら自分たちの学校をきれいにすることができた。学校の周りもきれいにしようと正門前の道路の落ち葉掃きも行った。

イ 山部ふれあい運動会

本校は、すべての種目が全校種目であり、たてわり班長や上級生が中心になって取り組むことができた。下級生に対する配慮や上級生に対する感謝の気持ち等、班が一丸となって活動したり、学年を越えて互いを応援したりする姿が見られた。

ウ お楽しみ行事

運営委員会の主催で、校内にかくされた風船をさがすゲームを行った。「お楽しみ行事」として、いつもとちがう場所や学年の違う友達と協力し、楽しく風船探しを行った。上級生が下級生の手を引き、優しく声をかける姿が見られた。

(3) 豊かな体験活動の展開

今年度は、やまびこフェスティバルにて、ジャズバンド「ウインドマシンオーケストラ」による音楽鑑賞会を行った。児童は金管楽器や弦楽器、ドラムの音を間近で聴き、喜んでいた。また、校歌をジャズ ver. で聴く貴重な体験もでき、共に参観していた保護者も感動している様子であった。



(写真3) やまびこフェスティバル

(4) 教職員自らの人権に関する認識を深めるための研修

ア 臨時休校となった4・5月に医療従事者やコロナウイルス感染者に対する偏見が現状としてあることから、本校でも事例をもとに研修を行った。実際に保護者が医療従事者で、児童がいじめにあった場合の対応方法を協議した。いじめにあった児童本人、いじめた児童の他にそれぞれの保護者に対して、気持ちに寄り添った対応が必要であることを共通認識としてもつことができた。

イ コンプライアンス研修として人権教育資料を用いた人権差別の類例や「教師による暴言」について事例研修を実施した。教師の言動のもつ責任の大きさを改めて実感し、人権意識の高揚を図った。

3 成果

- (1) 道徳や総合的な学習の時間、特別活動等を通して、キャリアパスポートを活用し自分の生活を振り返り、自分自身や友達について考える児童が増えている。
- (2) 異学年集団の活動を通して、互いに認め合う気持ちや励まし合う態度が見られた。高学年の児童が低学年の児童を気遣う優しさが育ってきている。
- (3) 体験活動を通して、学校外の人とふれあいをもつことができた。それらによって、相手を思いやる心や郷土愛などを学ぶことができた。

II 今後の課題

様々な人権問題については身近な例や報道等を取り上げ学活や人権コーナーで、児童に知らせていく必要がある。そのため、教師の人権教育に関する正しい理解と認識を高めるための研修をより充実させ、人権教育の啓発に取り組んでいけるようにする。